

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500516		
法人名	有限会社サロット		
事業所名	グループホームさくらひまわり		
所在地	愛知県尾張旭市柏井町公園通573番地1		
自己評価作成日	平成27年3月1日	評価結果市町村受理日	平成27年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&livyosvCd=2374500516-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010
訪問調査日	平成27年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花見や夏祭り、秋の遠足などを企画し、利用者様に生活の中で楽しみが持てるように支援している。出来ることは共に行きながら行って自ら行っていると感じていただけるような支援を心がけている。今年度は利用者様の入れ替わりが多かったが、皆様早い時期から生活になじんで頂くことができた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

愛知県森林公園南側にあり、前面道路脇には愛知用水が流れている。緑豊かな地域であり、訪問時には片鳴きの鶯が春を告げていた。平屋建て2ユニットには中庭があり、冬以外は季節の野菜を栽培している。各ユニット外にはウッドデッキが配置され、日向ぼっこ・バーベキューに利用されている。この一年間、初めて看取りを行い、手探りながらも、「終末期の入居者に対しどうしてもかきりきりになってしまう」という職員の反省や、そのため、「ユニットの他の入居者のケアがおろそかになってしまう」という職員の悩み、あるいは「もっとしてあげることがなかったか」という職員の自責の念等を知ることができ、管理者は大変参考になったと、今後の課題として捉えている。看護職がいることで、看取りに対する職員の負担も軽減されたかと管理者は語る。昨年の目標達成計画の実現のため、議事録の様式を改め、プラン見直しを日常的に行うシステムが構築された。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は休憩スペースに掲示してある。 研修で話し合いをしたりミーティングやユニット会議でも理念をベースに話し合いをしている	「この街で自然に暮らし、笑顔の見られる介護」を理念として掲げ、毎年4.5月には欠かさず理念の研修を行っている。「ホームの都合に縛られず、地域で孤立せず自分の思うような自立した生活」が「この街で自然に暮らす」ことの具体的なイメージと管理者は語り、職員と共にその実現に力を注いでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアによるハーモニカやレクリエーションの訪問や、近隣の保育園の来訪、運動会への招待もあり、交流を図っている。	町内会に加入し、町内の盆踊りにも参加し、森林公園が花見でにぎわう時期には、自治会で配布されるゴミ袋を持って前面道路の清掃もしている。地域ボランティアのハーモニカ演奏、年4、5回の保育園児の訪問、保育園運動会の観覧、等交流がある。地域代表は運営推進会議メンバーにも名前を連ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただき、意見を伺い理解していただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおよそ2か月に一度開催し、利用者様の近況報告や要望を伺っている。 行事と組み合わせるなどをし、ご家族様に参加していただきやすいようにしている。	入居者家族・地域代表・市長寿課職員・職員・管理者等をメンバーとし、ほぼ隔月に開催している。尾張旭市は年4回の開催を最低条件としているため、この一年で5回の開催が確認された。昨年「日々のカンファレンスで活用しやすい計画用紙作成」を目標達成計画に掲げ、様式を改め、徐々に効果を発揮し始めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月事業者会に出席している。 推進会議にも市役所の担当者が毎回出席して下さっている。	毎月市内の介護事業者・市長寿課職員・地域包括職員・社会福祉協議会職員が参加する介護事業者会議に管理者が出かけ、情報共有・交流を深めている。ホームが有している認知症の知識・介護のノウハウを地域に還元する取り組みの実現にも意欲を見せている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は交通量の激しい道路が近いためいたしかたなく施錠している。	前面道路は車一台が精いっぱい幅員であるが、主要道路工事が集中する3月、さらに花見の時期には、抜け道として利用する車が、想定外のスピードで頻りに往来があり、危険防止のため玄関は施錠している。入居者の要望には「否定せずまず受け入れよう」と職員に諭し、スピーチロック防止にも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度研修を開催している。 スピーチロックもないように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用している利用者様もあり、それぞれの担当者と連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者よりされている。説明し、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見ポスト」がある。推進会議や面会時に意見を伺っている。	ホーム便りは毎月発行され、外出時・行事での入居者の笑顔が各家族に届けられている。「肉をこうやって食べたいよね」と、肉を炙る真似をしながら嬉しそうに語り合う入居者同士の会話から、早速焼肉を提供し、大変喜ばれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や、ユニット会議など、日常的に意見や提案を話せるばを設けてあり、活用している。	去年の目標達成計画に掲げた「活用しやすい計画用紙」を実行し、その用紙をもとに週2回ユニット会議を開き、そこで出た職員の意見をもとに、次回への課題が議事録として職員間で共有されている。個々の職員の意見は、コピーして日々の記録に張り付けられ徹底されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1～2回面談があり、やりがいなどを話し合える場を設けている。スキルアップの研修も勧めてくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修がある。外部の認知症介護実践者研修やリーダー研修も参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者会や他事業所の研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や生活状況をアセスメントし要望を掴むようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前のアセスメント面談の時に要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意見を伺い今一番必要と思われる支援を出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を心がけ、本人が出来ることはしていただいている。 他利用者様と一緒に出来るように関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りなどのイベントに参加していただいたり、ブログや通信で利用者様の生活の様子を発信している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の訪問がある。 馴染みの美容室や集まりなどの参加を継続できるように支援している。	入居前の友人が2,3か月に一度訪問してくれる入居者もいる。昔からの馴染みの美容室やカラオケに出かけたり、入居まで習慣としていた集会に参加する入居者もある。ずっと、暮らしていた家に帰りたいという人には、家まで行ってもらい、風通しをして仏壇に線香をあげて帰ってくる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を見て席替えをしたり、リビングの模様替えをしている。 利用者様同士関わりあえるような配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先に面会に伺ったり、ご家族様とお会いした時に近況を伺うことをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様に要望を伺ったり、生活歴をアセスメントして、その人らしさを大切にしている。	手紙好きな入居者には家族が便箋・封筒を持参して、本人も一生懸命手紙を認め、買い物の折には手紙を持参し、投函する入居者もいる。花が好きな人は近所のばら園に出かけるようにしている。「自立」を最優先にしており、必要以上に手を出さないように職員は心がけている。居室の掃除も、自分の部屋だから「掃除、手伝ってくださいね」との声掛けは絶対にしないと、職員は「自主・自立」を促す取り組みについて語る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様、他サービスの事業所から情報収集して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事の時間は決まっているものの、起床、就寝時間や昼寝等はその人の生活リズムで過ごしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の朝礼や、週に二回のユニット会議で話し合いが行われ情報の共有に努めている。	基本的に半年に一度、退院時等ADL変化時は随時プランを見直している。プランの見える化・簡略化を目標達成計画に掲げ、改定した用紙を用い、週2回ユニット会議を開催し、次回までの課題を掲げ毎回見直している。会議での職員の意見はコピーして伝達事項として切り貼りされ、全員に回覧されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議の議事録を作成している。 個人記録も解かりやすいように記入し情報の共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診介助は希望に応じて行っている。 ご家族がいない方の衣類などは一緒に買い物に出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物を通して地域の様子を知り、暮らしに楽しみを持てるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がいる方は継続していただき、いない方は病院を紹介し本人様やご家族様の意向に添えるようにしている。	契約時から本人や家族の希望を伺い、かかりつけ医の受診ができるよう支援している。協力医療機関の往診があり、看護師も常勤しており、健康管理面で安心できる体制が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しているのですぐに相談し対応している。訪問診療時は管理者、看護師、調剤薬局も同席し、相談しながらできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時より早期退院を目指し病院関係者と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に管理者が説明をしている。状態の変化に伴いその都度ご家族様やご本人様と話し合いをし、意向を伺い、担当医と相談しつつ、話し合いをしている。	契約時に重度化対応に関する指針について説明し同意をいただいている。本人及び家族の意向を尊重して、日常生活から状態を常に把握し、変化があれば都度ご家族と話し合いをして、主治医にも相談し、方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事例検討を通してシミュレーションしている。救急マニュアルが電話付近に置いてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練をしている。	年に2回の避難訓練には消防署の協力も得て実施している。スプリンクラーも完備されている。いざという時の備蓄品も準備してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声の大きさなどの配慮をしている。 スタッフの対応で気分を悪くさせてしまった時は状況や言葉の内容を記録に残し、今後の対応に繋げている。	ご本人の尊厳を最大限に尊重し、しっかりとコミュニケーションをとっている。言葉遣いに気をつけ、職員の対応で気がついたところがあればすぐに話し合い指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけの仕方を工夫しできる限り本人の思いに添えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休息が必要な利用者様には休んでもらえるように居室に誘導している。散歩が好きな方は散歩に出かけたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅から持ってこられた好きな服を季節に合わせてご本人様に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼、夕飯は一緒に調理や片付けをしている。 週に一度、一緒にメニューを考えている。	栄養面を考慮したメニューで、職員と利用者で調理から片付けまでできることは一緒にやっている。週に一度は利用者の希望を話し合いみんなでメニューを決めている。イベント的に外食にでかけるなど楽しい食事になるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が沢山必要な方には湯呑を大きくするなど工夫している。リビングカウンターに常時お茶を置いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの他に必要な方は訪問歯科を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェックシートを活用し、時間だけではなくその前後の行動や様子を記録に残し、情報を共有し、ケアに活かせるようにしている。	排泄パターンを観察チェックし、職員で情報共有している。その情報を基にさりげなくトイレへの声かけ誘導をし、できる限りトイレでの排泄ができるように努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録に残し、便秘になっていないか把握している。 こまめに水分摂取していただけるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴の時間はあるものの、一日5人ぐらいしか入浴できないので1日おきに入浴していただいている。	週に4日程度入浴していただけるようにしている。夏など汗をかく時期には随時シャワー浴を実施し、清潔できもちのいい生活ができるように考えて実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡が必要な方には休んで頂いている。 睡眠薬を服用している方はほとんどいないが、徘徊はない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の協力にてセットと薬剤の簡単な説明の札がある。薬の変更時は記録に残し、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	動物の好きな方と散歩に行ったり、カラオケや喫茶店に行き、楽しんでいただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に一度の遠足にはご家族様にも協力を願いながらお出かけ先を考えたり、一緒に行く。	季節を感じられる場所への外出や近隣の散歩など、気候と体調を観察しながら積極的に外出できるよう努力している。ご家族の協力をお願いして外出していただくことも多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が管理できる金額を持っていらっしゃる方もいる。 おこずかいを一人一人管理しているので喫茶店などの支払いをご自分でいただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時には電話をしている。手紙を書く方は一緒に買い物に行くときに投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、毎月手作りのカレンダーと一緒に作成している。	季節が感じられる草花や、職員と利用者で作成した作品を飾って楽しい雰囲気になっている。ホームの建築がオシャレなペンションのようで、その雰囲気を活かした落ち着いた居心地の良い空間づくりになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを置いて会話ができるようにしたり、食席では気の合う利用者様になるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具などを持ってきていただき、安心して暮らせるように心がけている。	利用者がゆったりとくつろげるよう、思い思いの個室の雰囲気づくりを支援している。ご家族の協力を得て使い慣れたものを持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどをわかりやすく表示したり、廊下やトイレには手すりを設置し歩きやすいようにしている。		